

1 川口市朝日環境センターごみピット火災事故報告について

(1) 事故報告書の目的と経緯

令和7年1月3日（金）20時55分に川口市朝日環境センターにおいて火災が発生し、焼却施設が停止した影響により、1月9日（木）及び10日（金）の2日間は、家庭系一般ごみの収集が停止し、大きな事故となったことから、事故原因を分析し、市民に対し今後の分別回収の協力及び理解を求めするため、本報告書を作成したものである。

(2) 火災事故の状況

資料1「2火災事故の状況」のとおり。

(3) 火災事故の検証と課題

ア 運営体制の課題

火災発生当日、委託業者の人員は適切に配置されており、発生時の役割分担も適切に行われていたが、リチウムイオン電池などの発火危険性のあるごみが増えてきたことを踏まえ、より迅速かつ的確な対応を実現するため、初動対応を見直す必要がある。

イ 消防設備・監視設備の課題

炎検知器の見直しや、炎発生後は煙が充満して目視が困難となることから、自動で消火を行う設備を導入するなど、設備の改善が必要である。

ウ 消火活動の課題

朝日環境センターに保管する使用薬剤の情報を消防局へ提供することや、施設内の案内表示の設置、また、熱の影響でごみ投入扉の電気ケーブルが焼損し、開閉不能となったことから、停電時も開閉できるよう対策が必要である。

エ 出火原因の検証・課題

調査の結果、出火原因は不明であった。

調査の中では、火災の危険性を伴うごみが複数混入していることが確認されたことから、正しく分別して排出することが重要であり、排出者の理解と協力が不可欠である。

(4) 課題に対する再発防止策

ア 運営体制

リチウムイオン電池による火災が近年多発していることから、延焼拡大のリスクを抑えるため、火災を発見した場合は、すみやかに119番通報するとともに消火活動を開始するよう初動対応の見直しを行った。

イ 消防設備・監視設備

被害を抑制するため、早期の段階で火災を発見できる発火監視装置及び自動的に火災に照準をあわせ消火が可能な自動放水銃を設置する。

ウ 消火活動

消防隊による円滑な消火活動のため、消防局へ使用薬剤の情報を提供するとともに、施設内の案内表示を設置した。また、停電時のごみ投入扉を開閉できるよう非常用ドアロックを設置した。

エ 出火原因

火災の危険性があるごみの分別の啓発を行うとともに、リチウムイオン電池等使用製品については、第一本庁舎、リサイクルプラザ及び戸塚環境センターに9月から回収ボックスを設置することで適正な分別排出を強化した。

(5) 復旧工事及びスケジュール

ア 復旧工事

朝日環境センター一般機器(燃焼溶融設備ほか)点検整備委託	613,206,000円
朝日環境センターNo.1ごみクレーンほか復旧工事	1,648,900,000円
朝日環境センターごみピット火災再発防止対策工事	160,600,000円
復旧工事(見込額)合計	2,422,706,000円

イ スケジュール

資料1「5復旧工事(2)復旧工事スケジュール」のとおり。

(6) 第三者機関の意見

ア 公益社団法人全国都市清掃会議による火災事故への対応についての意見

委託業者の安全作業標準に沿った一連の初動対応は、遅滞なく実施されたと考えられる。

しかしながら、停電時にごみ投入扉が開閉しなかったことから、今後、改修・改善による成果を期待する。

また、リチウムイオン電池関連製品の搬入防止に向けた、さらなる啓発による成果を期待する。

イ 一般財団法人日本環境衛生センターによる復旧工事に関する設計図書の適切性についての意見

復旧整備委託、復旧工事及び対策工事の設計金額の積算方法はいずれも妥当と考えられる。また、復旧工事及び対策工事についても、工事内容及び図面は妥当と考えられる。